

永久歯列に「すき間」がある人は注目！

目立たず快適！最新の矯正歯科治療ツール

シリーズ・歯の健康相談

装置が透明で薄く、人の視線が気にならない上、装着時の違和感もほとんどない。欧米で普及している「インビザライン(Invisalign)」(米国・アラインテクノロジ社)が、今年のはじめに日本でも導入。

「新世代の矯正装置」と注目されるこの治療ツールのことを前回のコラムで紹介しましたが、まだまだ気になることはいっぱい！そこで、ほりい矯正歯科クリニックの堀井和宏さんを訪ねて、さらに詳しく聞きました。



ほりい矯正歯科クリニック・堀井和宏さん

「インビザライン」とは「ナー」を作り、段階順に患者の歯の型をスキャンしたデータをもとに、治療による歯の移動をコンピューターでシミュレーション。10〜50段階程度に分けて、透明なマウスピース状のポリウレタンシート「アライナー」を作り、段階順に装着するシステムです。では、どんな不正咬(こう)合に適していますか

「歯と歯の間にすき間があり、「前歯のすき間を閉じる必要がある」「歯が軽度の乱杭(らんこう)（叢生(そうせい)）という状態である」など、歯の移動量が小さい場合。また「治療中の外見に抵抗がある」「以前治療していたが症状が戻ってしまっている」など、従来の矯正装置に抵抗がある人にも適している、といえるでしょう。

「抗がある」「以前治療していたが症状が戻ってしまっている」など、従来の矯正装置に抵抗がある人にも適している、といえるでしょう。

「歯と歯の間にすき間があり、「前歯のすき間を閉じる必要がある」「歯が軽度の乱杭(らんこう)（叢生(そうせい)）という状態である」など、歯の移動量が小さい場合。また「治療中の外見に抵抗がある」「以前治療していたが症状が戻ってしまっている」など、従来の矯正装置に抵抗がある人にも適している、といえるでしょう。

ただし基本的に永久歯列が完成していることが条件なので、歯列の成長を利用して行う歯科矯正には使えません。成長が想定される場合は従来の矯正装置を使った方がよいでしょう。

「歯の裏側からの矯正治療と同様、装着しても目立たない上、厚さ0.3ミリと薄いので、口の中の違和感がほとんどないこと。治療中も取りはずせるとブラッシングなど口内の清掃も容易です。では、デメリットは？」

「患者が自分で取り外せるため、装着時間が不十分になる可能性も。その場合は治療が進まないばかりか、治療方針の変更が必要になることも。また固定式装置ほど歯の動きが精密ではなく、適用する不正咬合の種類が多くないこと、です。」

インビザラインは、欧米ではすでに20万人以上の患者の治療に使用され、相当のデータ蓄積があります。欧米人と日本人のあごの骨の形態の特徴や歯列、歯の特徴など違いはありますが、今後、日本でも多くの人に受け入れていただけるのではないかと思います。

「アライナーはマウスピース状。コンピューターで解析した歯の移動データをもとに10〜50段階に分けて作り、付け替える。写真はその一つ」

「アライナーはマウスピース状。コンピューターで解析した歯の移動データをもとに10〜50段階に分けて作り、付け替える。写真はその一つ」



「自分で簡単に付けはずしができ、装着したとき、口の中の違和感があまりないのも特徴です」



「装着してもこの通り。「本当に治療中なの？」と驚いてしまうほど目立ちません」

「自分で簡単に付けはずしができ、装着したとき、口の中の違和感があまりないのも特徴です」

「自分で簡単に付けはずしができ、装着したとき、口の中の違和感があまりないのも特徴です」

「装着してもこの通り。「本当に治療中なの？」と驚いてしまうほど目立ちません」

「アライナーはマウスピース状。コンピューターで解析した歯の移動データをもとに10〜50段階に分けて作り、付け替える。写真はその一つ」

「自分で簡単に付けはずしができ、装着したとき、口の中の違和感があまりないのも特徴です」